

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 24 年度

事業所番号	2771602311		
法人名	テルウェル西日本株式会社		
事業所名	ケアポート大阪西吹田センター グループホームやすらぎ		
所在地	大阪府吹田市出口町17番33号		
自己評価作成日	平成 24年 6月 20日	評価結果市町村受理日	平成 24年 9月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設前には、市立図書館・総合福祉会館・保健所と公共施設があり、時には福祉会館の喫茶に出かけたりしています。又、近くには公園があり、季節の花々、秋には紅葉と緑に包まれ散歩を楽しんでおります。同事業所内のデイサービスでの行事にも参加し、月に1度は、大浴場やリフト浴を楽しんでいます。近況では、階段の踊り場にて季節に合わせた飾り物の展示を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2771602311&SCD=320&PCD=27
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 7月 27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

NTT西日本株式会社のグループ会社である、テルウェル西日本株式会社が運営する2ユニットのグループホームです。ホーム周辺には公園があり緑が多く、利用者が気軽に活用できる総合福祉会館などの公共施設が立ち並び、めぐまれた環境にあります。ホーム前の敷地が広く、ミニ花火大会などの催しを行い、地域との交流もできる場所になっています。利用者家族は熱心で、運営推進会議のメンバーとして5人が参加し、積極的な発言を行うなど、ホーム運営に大きな役割を果たしています。職員は熱心で常に利用者・家族の意向を大切に取り組んでいます。利用者の安全を図るために市担当課職員の助言を得て、ホーム内に安全推進委員会を立ちあげ、転倒事故防止等に取り組む、1年間で事故数を半減させるなどの成果を上げています。ホームでは近隣住民や総合福祉会館にも協力を依頼して、非常災害時の支援体制を整備しています。また、地域住民等に呼びかけ「介護予防教室」を継続して開催するなど、地域貢献にも努めています。地域との連携も良く、職員の育成にも力を入れており、今後もさらにサービス向上が期待できるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心・安全・信頼」をモットーに常に真心と優しさで利用者様に接し、「明日もここで過ごしたい」と思って頂けるサービスを提供いたします」を基本理念として挙げ、別にグループホーム事業基本方針をも定めています。	「安心して楽しく過ごせる我が家のような空間を作り出し、『安心・安全・信頼』をモットーに真心と優しさを持ってサービスを提供します。」を事業法人の基本理念とし、『なごやか』『いきいき』『ゆったり』と利用者が地域の方々と共に安心して暮らせるように支援しています。また、事業基本方針の一つとして「グループホーム運営推進会議等により地域に開かれたグループホーム作りを行い、要望助言等を受けサービスの質の向上を図ります」と明記して、地域密着型サービスの実践に努めています。	管理者は介護スタッフが多忙な日常業務に追われ、理念の実践がおろそかにならないように配慮しています。職員一人ひとりのスキルをさらに高め、管理者と職員が力を合わせて、今後も引き続き理念を活かした利用者支援を進める予定です。今後の取り組みが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所連絡会や夏祭りの参加等の他施設、地域住民との交流も積極的に参加している。最近では「介護予防教室」の開催を地域に案内しています。	夏祭りなどの地域行事に参加したり、同法人デイサービスを利用している高齢者と行事を通じて交流したりしています。道路を隔てた総合福祉会館ロビーに出かけて喫茶室でお茶を楽しみながら、地域の人々と挨拶を交わしたり談笑したりしています。また、地域住民等に呼びかけ、「介護予防教室」を継続して開催するなど、地域貢献も果たしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	吹田市の地域の福祉委員会、民生委員の報告会等への参加し、認知症についての理解、又地域の支援サポーターに活かしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催しています。利用者様の状況報告や意見交換、検討事項やその後の経過報告等を話し合い、サービスの向上に向けて、日々取り組んでいます。	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的で開催しています。利用者家族が5名構成メンバーとして登録され、会議には常に複数名の参加があり、ホーム運営についての積極的な発言や提言を行っています。ホームでは運営推進会議で出された提言や助言等を重視し、サービス向上に活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	吹田市のグループホーム、特定施設と介護保険課職員との定例事業者部会に参加し、意見・情報の交換・相談等の話し合いに取り組んでいます。	市の担当者とは相談しながら事業を進めています。市からの助言を受けて、事故防止を図るために事業所内で安全推進会議を立ち上げ、事故防止等に取り組んだ結果、一年間で事故が半減するなどの大きな成果を上げています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠となっていますが、利用者様が外出しそうな様子を察知したならば、一緒に外出するなど、安全面に配慮し自由な暮らしを支えるようにしています。身体拘束をしないケアの実践に努めています。	ホームでは「身体拘束排除の方針」を職員間で徹底する為に、マニュアルを作成して取り組んでいます。玄関には、安全確保のために終日鍵をかけていますが、「鍵をかけないケア」についての意義は理解しています。利用者の自由な暮らしを支えるために、外出の希望があれば職員が付き添い、外出するなどの努力をしています。	玄関の施錠については利用者が閉塞感を持たないように「鍵をかけないケア」に取り組むことが期待されます。安全推進会議や運営推進会議等で話し合い、利用者の安全を守りながら玄関を解錠するためにはどうすればよいか、本格的に検討してはいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアで虐待となる可能性のあるケアについて、介護スタッフ間で話し合いを行い虐待防止に努めています。又高齢者虐待防止について、研修会も実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の高齢者・重度化が確実に進行しているところから、介護スタッフの勉強会等を通して、基礎的知識を習得させると共に今後、同制度を必要とされる家族様への活用に具体的に繋げて行く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時には、契約書・重要事項説明書を基に説明し、不安や疑問について納得行くまで話し合い、納得を得た上で入居手続きを開始しています。締結改定等も同様に納得を得た上で手続きを進めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート実施、運営推進会議への結果報告、又全員の家族様へ送付。職員はミーティングにて改善へ向けて話し合っている。	利用者、家族の意見や要望を重視して、何よりも優先して実行するようにしています。家族がホームに来られたら職員から積極的に報告をしたり、意見を聞いたりしています。また全家族対象のアンケートを実施し、ホーム運営に活かしています。運営推進会議では、家族がホーム運営や利用者支援について具体的な提言を行うなど、職員と家族の協力関係も見られます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や毎日の申し送りの中で、提案や意見を聞き報告し、反映させるように働きかけています。	管理者は、日頃から職員の意見を聞く機会を多く持っています。また、所長が年に2回程度個別面接を行い、職員一人ひとりの意見や要望を確認し、対応しています。また、スタッフ会議や安全推進会議等で出された提案や意見については、全体の合意を得てホーム運営に活かしています。	ユニットごとに開催される全員参加のスタッフ会議は定例化されていますが、それぞれのユニットの経験や工夫を互いに学びあうという点で、職員全体の会議を開催してはいかがでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や成果・実績については、業績評価あるいはスキルアップ賃金加算制度を導入し、熱意と向上心を持って業務が行える環境に勤めています。労働条件に関しても、労働基準法を遵守し、働き甲斐のある職場環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修の機会を設け実施し、スキルアップを図っています。日々のケアの中で困難を感じる事があったならば、その都度ケーススタディとして、技術や知識を身につけるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吹田市の民生委員、福祉関係者、地域の他事業者の連絡会、交流会に参加しています。同業者との勉強会や見学を含めサービスの質の向上を図っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中での利用者様の不安や要望をしっかりと傾聴し、利用者様の気持ちを受け止めた上で、安心して日常を過ごせる関係作りを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に利用者様の日常の様子を伝え、家族の要望に耳を傾け、家族様の意見もしっかり受け止め、安心してご家族を入居していただけるよう信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時、家族、利用者様の要望をお聞きした上で、サービス導入の初期対応の段階で、必要な支援を見極め、他の行政サービス等の助言や情報も入手し、初期段階での適確な対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活(食事、洗濯、掃除)を共にすることにより、協力し、支え合う信頼関係を築くよう努めています。また共通の体験、話題を通して、人生と一緒に楽しむパートナーとしての関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様に年間・月間行事の参加を募り、一緒に楽しく過ごして頂ける時間を持て頂けるよう努めています。今年のひな祭り会では、着物の着付けをして下さる娘様や、写真を撮りに来て下さる家族様もおられ、家族の絆を大切にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話連絡以外にも、絵手紙の年賀状や暑中お見舞葉書を送付など、親戚の方や友人、知人の方々との関係支援に努めています。	友人や知人の来訪がある場合には、利用者とゆっくり話ができるように支援しています。馴染みの美容院を利用したり、墓参りをしたり、馴染みの場所に出かける希望がある場合には家族の協力を得るなどして、関係が途切れない支援に努めています。年賀状や暑中見舞い、手紙などを出される場合には、利用者の状況を見て必要な支援をしています。また、友人等に電話をされる場合にもその都度支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の生活スタイルも大切にしながら、時には集団レクリエーション（体操、ゲーム、歌）生活レクリエーション（洗濯、調理）で、共に関わり、支え合い、楽しめる関係支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設等へ移動においても、これまでの状況、ケアの工夫等を詳しく伝え、サービス提供の低下を招かないよう配慮しています。また、サービス終了後も元利用者様、家族様との面会、連絡をしながら交流を図っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、利用者様がどのように暮らしたいかを聞き取り、家族様の意向を日々お聞きし、利用者様の視点に立った支援が出来るように努めています。困難な場合も、家族様と話し合い希望をお聞きし、カンファレンスを通して、本人本位の支援が出来る様に努めています。	職員は利用者一人ひとりに個別に対応する時間を作って、話を聞くようにしています。言葉で表現できない場合にも表情や仕草、声のトーンなどで意向や希望を確認しています。また、確認が難しい内容や課題の場合には家族の意向を聞き対応しています。	ホームでは重度化が進行した場合の意思疎通が困難な利用者に対してパーソン・センタード・ケアの「人を尊重する」考え方にに基づき、昨年研修を受けて考え方を習得した職員を中心に、利用者の視点や立場に立った支援を進める予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時面談の際、これまでのサービス状況をお聞きし関係各所より情報を得て、入所に至るまでの経過の事前把握に努めています。又、入所後も、御本人のお話、面会時の家族様のお話をお聞きし、より詳しい生活歴の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態の観察、記録を行い、カンファレンス等で、現状において何が出来るかを検討し、状態を把握した上で、現状において出来ることを見出し、支援に繋げています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い6ヶ月に1度の頻度で介護計画を見直しています。利用者様の意見や家族様、訪問看護師、主治医等の各関係者の意見をお聞きした上で、職員間での意見を出し合いより良い暮らしが出来る様、頻回にカンファレンスを重ね、状態変化に即したケアが出来る様、介護計画を作成しています。	計画作成担当者は利用者・家族の意見を聞き、さらに必要な場合には訪問看護師、主治医等、関係職種の意見を聞いて計画策定をしています。朝夕の申送りやスタッフ会議で把握した利用者状況を基にアセスメントを行い、計画を作成します。計画はさらにスタッフ会議に提示し、確認を行います。最終的には家族に説明をして了解を得ています。介護計画書は6ヵ月毎にモニタリングを行い、見直しをしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の小さな状態変化、言動等を見逃さず、気づきのあった事を個別記録し連絡帳に記入しています。また、申送り等では、職員間での情報を共有しカンファレンス等で検討を行い、介護計画の見直しに反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に1度 併設するデイサービスでのリフト浴や、行事、レクリエーション等にも参加し、サービスの多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の図書館、福祉会館の利用を始め、公園への散歩、お花見会、バザーや地域の夏祭りへの参加等、地域その他施設のご協力・ご支援をいただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃より希望する医療機関を聞き取り、状態変化や家族様の希望により専門医の受診が必要な時には、主治医より紹介状を受け、施設での症状等を記載した書面を病院に持参して、受診していただいています。	利用者・家族の希望に添った医療機関で、適切な医療が受けられるように支援しています。希望があれば月に2回、ホーム提携医師の往診が受けられます。また、緊急時には夜間でも提携医師の往診や指導を受けることができます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回来所する訪問看護師に、介護スタッフから状態の変化や気付いた事、疑問点、相談等を伝え指示を仰いでいます。また、各利用者様に適した個別ケアを実施し、ホーム主治医の判断の上、希望があれば紹介状を受け、適切な病院受診が出来るよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	希望される入院先の病院を聞き取り、救急時は、希望病院に搬送できるよう配慮しています。また、入院時には、サマリーや日頃の利用者様の様子、入院に至った経過等を書面にし、情報提供を行っています。入院中も退院に向けての諸注意、今後の受診等を病院関係者と相談し退院後の施設でのリハビリ等の指示を仰ぎ、早期に退院が出来る様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご家族様に終末期のあり方について、アンケートを行い施設が出来る対応について話し合っています。重度化に向けた介護スタッフ研修も実施し、家族様ともターミナルケアについての方針を共有できる様努めている。また、地域の医療関係者（主治医、訪問看護等）と共に連携体制の整備に取り組んでいます。</p>	<p>「看取りに関する指針」を定め、入居契約時に重度化した場合の対応について説明をしています。家族アンケートを行い、看取りについての意向等を確認しています。また、ターミナルケアについて職員研修を行い、医師や看護師との連携調整も行いながら看取り支援の体制を整備しています。しかし、現在までに、ホームで看取り支援を行った経験は無い状況です。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時のマニュアルを整え、職員の応急手当や、対応の研修も定期的に行っています。また、月1回安全推進会議を開催し、日常に起こった、ヒヤリハットの検討や今後の対策についても話し合っています。なお、家族様にも適時 状況をお伝えしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の具体的な避難マニュアルを整え、定期的に地域の消防署等の協力を得て、年2回の避難訓練を実施しています。また、近隣の協力体制もお願いし、(福社会館, 地域住民等)災害時の支援をお願いしているところです。	非常災害時マニュアルに添って、年に2回、防災避難訓練を実施しています。消防署には協力を依頼していますが、備品を借りて使い方の指導を受けただ後、職員と利用者で自主的に消火訓練や避難訓練をしています。また、近隣住民や市の総合福社会館にも協力を依頼して、非常災害時の支援体制を整備しています。災害時の備蓄については、ホーム内に一部準備していますが、その他は他市にある同法人の本社機関に備蓄しています。	ホーム内の備蓄について、飲料水の増量をしてはいかがでしょうか。また、保存期間の確認等を含めて年に2回、防災避難訓練時に職員間で在庫等の確認をすることが期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人権、人格を尊重し、プライドや羞恥心等を傷つける事のない様な対応、声かけを介護スタッフ間で常に話し合い実践しています。	職員は利用者一人ひとりを大切にしたい言葉かけや対応をしています。職員間で話し合い、常に適切な対応ができるように日々取り組んでいます。重度化された場合でも利用者の意思を汲み取り、表情を確認しながら支援しています。職員は、入職時に守秘義務についての契約書を交わしています。	管理者は介護スタッフに対して、介護技術とは別に、介護における権利擁護の考え方や関係諸制度等について十分な知識習得を行い介護のプロとしての専門性を高めるために研修等を実施して行く予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に状況に応じた声掛けにより、利用者様から発言出来やすいよう環境と信頼関係の構築に心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中のレクリエーション、食事、排泄、食事等の声掛けは、利用者様のペースに合わせて行うように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している方は、自ら身だしなみをしていただき、外出時でも、利用者様自らおしゃれな服を選んで着ていただいています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回利用者様と一緒に献立を考え、食事作りをしています。また、普段の調理でも野菜を切っていたり、盛り付け等も一緒に参加していただき、他の利用者様に役立っていたことを体得していただくように努めています。	食事は3食ともにホームで作っています。食材は栄養バランスやカロリーを考えて作られた献立に添って業者から搬入されます。職員は利用者の希望や状況に合わせて食べやすく食材を調理します。また、盛り付けや下膳など、利用者のできることを一緒にしています。月に1回は利用者と共に献立を作り、食材の買物から利用者と共に çıkかけて食事作りを楽しんでいます。利用者の希望に添って、外食を楽しむこともあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	常に個人の水分、食事摂取量を記録 し、日々の変動に注意しています。ま た、食事困難な方は、ミキサー食とし 水分はポカリスエットをゼリーにした物 や紅茶、ジュース等の嗜好品を飲んで いただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは声掛けや介助に て行っています。その際、歯ブラシ、ス ポンジブラシ、うがい薬等、個々に応じ て口腔ケアを実施しています。また、月 1回の居宅管理指導にて、歯科衛生士 による口腔ケアを実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の習慣やリズムを把 握し、スムーズに排泄出来るようにさり 気なく声掛けし、自立に向けた支援、ト イレ誘導を行っています。	排泄記録をもとに、利用者の排泄間隔 を考慮してトイレ誘導をしています。ま た、排泄が自立している利用者にも、 清潔が保たれるように声かけを実施し ています。職員が利用者の心理を理 解して細やかな支援を行う中で、排泄 が自立に導いた事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が出来るように、水分、食事 の摂取に心掛けています。現在、服薬 されている利用者様に対して、排便状 態により服薬の調整を主治医の指示 を受けなが実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ずつゆっくり入浴を楽しんでいた たく為、各自の個性に合わせて、生活の流れの中で、入浴をしていただけるよう声かけ等を工夫しています。	利用者一人ひとりに週2回の入浴日を 設定していますが、それ以外の日でも 入浴を希望される場合には、入浴する ことができます。重度化された利用者 にはゆっくりと入浴してもらうために、 月に1回併設するデイサービス施設で の大浴場への入浴や、リフト浴を実施 しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	毎日、昼寝される方もあり、その 日の体調に合わせて休憩をして いただいています。夜は、安眠して いただけるように心掛けていま す。又、就寝前のTVも穏やかな プログラムを選ぶようにしてい ます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる	間違いなく服薬が終えているか を必ずチェックを行っています。 特に薬の変更があった場合、提 携医との連携を図り、処方箋の 目的、副作用、用法を確認し、 利用者様の状態を細かく観察 し、申送りを正確に行うように しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事（洗濯干し、洗濯物たたみ、調理、掃除等）を日課とし、介護スタッフとともに日々お手伝いをお願いしています。また、レクリエーションとして音楽療法やカラオケ大会ゲーム等を計画実行しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や希望に応じて、買い物や近くの公園へ散歩や敷地内駐車場での外気浴を行っています。又、年2回家族様への参加を要望してお花見会や秋の紅葉を楽しんでいます。	買物や散歩、近くの総合福祉会館の中にある喫茶室に出かけるなどが日常の外出支援です。年間行事ではお花見や夏祭り、公園へ秋の遠足、初詣などがあります。家族の協力を得て墓参りや美容院等へ出かけることもあります。	利用者がホームの敷地から外に出て、ホーム以外の人とふれあう機会が週に何回あるのか、一人ひとりの外出状況を細やかに把握して、今後の支援に生かすことが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設にて預り金管理を行っています。なお、購入希望される物品は、介護スタッフによる買物代行やご一緒に近くのスーパー等への買出しを行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族様からの電話、利用者様自ら希望される電話に対して適時、取次ぎ等の対応を行っています。また、手紙のやり取りでは、年賀状、暑中見舞い、絵手紙等の発送等の支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア的环境整備等に常に意識しており、トイレや浴室へ移動をスムーズに行うことが出来るようにしています。行事の際に撮影した写真を玄関やフロアに貼り出すことにより、季節感や生活感を取り入れるよう努めています。	ホームは1・2階にあり、1階にはデイサービスセンターが併設されています。総合玄関を入り右手に1階の玄関があり、つきあたりのエレベーター、階段を上がると2階の玄関があります。ホームの玄関は広く、通路も広々としています。玄関やフロア、食堂兼居間にはソファやイスを置き、利用者が自由に好きな場所でくつろげるようにしています。ホーム内には季節の花や飾り付けをして、季節が感じられるようにしています。職員は空調にも配慮して、居心地良く過ごせる共有空間にしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアを始め、食堂、玄関先にもソファを配置し、一人ひとり好きな時に座れる様に配置、又どこに座ったらよいか迷われた時は、声掛けを行い、気の合った人の隣にさり気なく誘導しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様や家族様の意見を取り入れ写真や好きな花など飾り、又、利用者様自身が書かれた習字などに囲まれ居心地良く過ごせるよう工夫しています。	居室入口には、利用者の写真や作品、暖簾などをかけて自分の部屋を分かりやすくしています。室内には使い慣れたベッド、タンスや仏壇、イス、ぬいぐるみ、写真などを置き、それぞれが個性的な居室になっています。居室窓からの景観が良いことも、居心地良く過ごせる環境の一つです。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室へは、表札、写真などを飾り、個人の自立を促し見守っています。また、共同作業として、好きな趣味などを昼休み等にさり気なく誘導し、達成感を味わっていただけるよう努めています。		